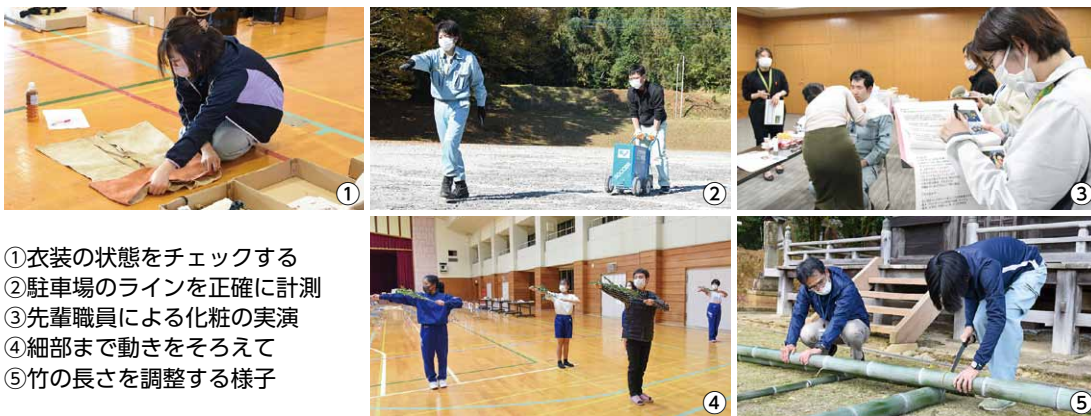


はにわ祭の裏側 — 伝統継承の軌跡 —



- ①衣装の状態をチェックする
- ②駐車場のラインを正確に計測
- ③先輩職員による化粧の実演
- ④細部まで動きをそろえて
- ⑤竹の長さを調整する様子

はにわ祭の準備は、四神旗に使用する竹の準備は全ての工程を手作業で行っています。この作業を担当した職員は、切り倒し枝を切った竹を三重塔まで運び、4本の太さと高さが均等になるよう調整するなど、額に汗を流しながら準備しました。

四神旗に使用する竹は 切るところから全て手作業
 四神旗に使用する竹の準備は全ての工程を手作業で行っています。この作業を担当した職員は、切り倒し枝を切った竹を三重塔まで運び、4本の太さと高さが均等になるよう調整するなど、額に汗を流しながら準備しました。

祭を支える裏方の奮闘記
 台風や新型コロナウイルスの影響により4年ぶりの開催となった「第37回芝山はにわ祭」。その舞台の裏側には、さまざまな奮闘がありました。約半数が未経験
祭を彩る古代人の化粧
 はにわ祭に欠かせない存在の「古代人」。限られた時間の中で正確かつ手際よく化粧をするため、古代人化粧講座が実施されました。今回が初めての参加となった若手職員は、メモや動画で化粧のポイントを学びました。

町インスタグラムでは、準備の様子を動画で公開しています。ぜひご覧ください！



長年受け継ぐ大事な衣装 丹精込めてきれいに修繕
 経年劣化による傷みや汚れが生じていた、古代人の衣装。ほつれている部分を縫い直したり、乱れているかつらを丁寧に整えるなど、全61着の衣装をきれいに仕上げました。この繊細な作業は、祭前日の夕方まで続きました。
当日を想定した事前準備で 会場付近の混乱を防ぐ
 駐車場の混雑により儀式が見られない方が出たり、周辺の道路状況に影響を及ぼすことのないよう、駐車場のライン引きや通行止め看板の設置を行いました。

Pick up 踊りを通してつないだ伝統 —心を一つに挑んだ4年ぶりの巫女の舞—



▲「芝山でしかできない経験は一生の思い出」と話す舞巫女たち

祭の約1カ月前から始まった舞巫女の練習。限られた時間の中で少しでも多くの技術を覚えようと励む子どもたちと、細部まで丁寧に教える指導者の皆さんの姿から「踊りを通して伝統をつなぐ」意志が感じられました。

無事に本番を終え「楽しくて気付いたら終わってしまった」と話す子どもたちは凛として美しく、指導者の皆さんも「練習以上に素晴らしかった」と安心した笑顔を見せました。



▲思いを込めて指導してくれた指導者の皆さん
